

令和6年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 飛幡 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、3年生を対象として、令和6年4月18日（木）に、「教科（国語、数学）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月10日から4月30日の間）に「生徒質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査（国語、数学）

教科に関する調査（国語、数学）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 生徒質問調査

生徒質問調査

○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

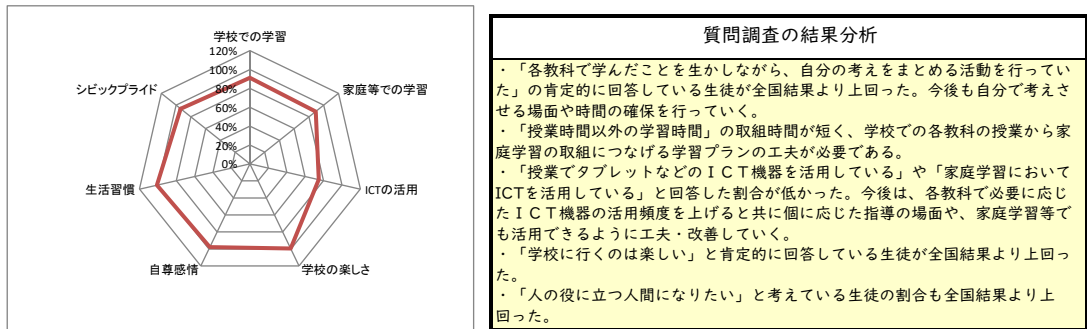
(1) 全国・本市の学力調査（国語、数学）の結果

本年度の結果	国語		数学	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.5	57	7.8	49
全国	8.7	58	8.4	53

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」及び「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」のどの内容においても全国平均を上回る状況。漢字の成り立ちから行書の特徴まで硬筆や習字を通しての学習の成果も出ていると考えられる。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	4三 行書の特徴を踏まえた書き方について説明したものとして適切なものを選択する	
	努力が必要な問題	1ー 話し合いの中の発言について説明したものとして適切なものを選択する	
数学	全体的な傾向や特徴など	「数と式」が大きく下回っており、次に「関数」、「データの活用」、「図形」とどの領域も基礎学力が定着していない生徒が目立つ。全問不正解のものもある。全体的に見ても解けているものと解けていないものの2極化している。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	8（1） ストープの使用時間と灯油の残量の関係を表すグラフとy軸との交点Pのy座標の値が表すものを選ぶ	
	努力が必要な問題	2 等式 $6x + 2y = 1$ をyについて解く	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

・朝自習の取組を見直し、基礎学力の定着を図る。朝自習の取組から週末テストにつなげる。国語であれば、「漢字テスト」。数学であれば、「計算テスト」。英語であれば、「英単語テスト」や「リスニングテスト」などを行う方向で工夫・改善する。

② 家庭生活習慣等に関する取組

・各教科の授業より家庭学習課題につなげる工夫を行い、家庭学習時間の確保に導くよう考えていく。
・家庭学習におけるICT活用率を上げる、各教科による課題設定の工夫を行う。
・自然と出る「あいさつ」や正しい「言葉づかい」が身に付くよう、教師側の日頃からの声かけを大切にしていく。